

ほくとライブラリー



新屋図書館だより



発行：秋田市立新屋図書館

秋田市新屋大川町 12-26 ☎ 018-828-4215

<https://www.city.akita.lg.jp/kurashi/shakai-shogai/1008469/1008848>

H30. 9月号

No. 203

新屋図書館市民講座のお知らせ

十和田湖とカルデラとマグマの秘密

～ココア実験で考えよう～

日 時：平成30年9月15日(土)

10:30～12:00

場 所：新屋図書館 研修室

講 師：理学博士 教授 林 信太郎 先生

定 員：小学4年生以上の子ども 20名

大人 20名

受講料：無料

申込み：8月21日(火) 午前10時から

移転開館20年記念講座

日本酒の来た道

日 時：平成30年9月29日(土)

13:30～15:00

場 所：新屋図書館 研修室

講 師：元蔵人 岡住 修兵 氏

定 員：先着 20名

受講料：無料

申込み：9月8日(土) 午前10時から

第1回 夜の図書館 満月の夜の“敷居の低い”読書会



平成30年9月25日(火・休館日) 17:30～19:00 夜の図書館で好きな本について語り合いませんか? 「秋」「月」「夜」から連想する本をお持ちください。聴くだけでも構いません! 読書会に興味があるけれど参加したことがないという方は、この機会にぜひご参加ください!

申込み：9月10日(月) 午前10時から



※市民講座・読書会へのお申込みは、電話(828-4215)または開館時に新屋図書館カウンターで受け付けます。

9月のおはなし会

9月1日(土) 14:00～14:40

生き物は友だち ～科学絵本・紙芝居～

(おはなしの部屋・幼児～小学生)



9月11日(火) 10:30～11:00

動物がいっぱい ～絵本・指人形～

(おはなしの部屋・赤ちゃん～)



新刊案内

ラダックの星

中村 安希／著

潮出版社 請求記号 292 (紀行文)

ラダックとはチベット語で「峠の向こう」を語源とする、標高3500mの北インドの秘境です。最高の星空に出会うため、著者はこの地に降り立ちました。そこには友人の死が深く係わって…。『インパラの朝』で開高健ノンフィクション賞を受賞した女性の紀行ノンフィクションです。



よこてだいすき 横手を学ぶ郷土学

横手市教育委員会教育総務部文化財保護課／編

横手市教育委員会 請求記号 A375 (郷土資料－横手)

オールカラー、総ふりがなつきで、小学生から大人まで使える「横手を学ぶ郷土学」の手引書。足元のことを知らなければ、外の世界（違い）を知ることはできません。過去と今があって未来があります。横手を知り、魅力を発見し、未来を作る、そのてがかりとして！



ネコと歩けば

岩合 光昭／著

辰巳出版 請求記号 645 (猫)

「世界ネコ歩き」でおなじみの動物写真家・岩合光昭さんのネコ写真集。北海道から広島まで、日本各地のネコたちの姿がおさめられています。岩合さん自身によるキャプションやエッセイは、その地に住むネコたちやそれを見守る人たちへの温かさにあふれています。

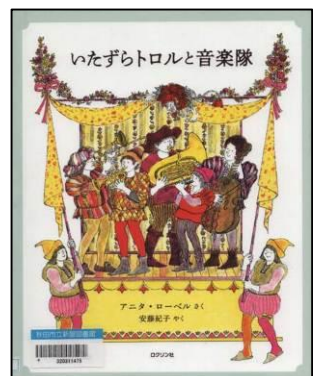


いたずらトロールと音楽隊

アニタ・ローベル／さく 安藤 紀子／やく

ロクリン社 請求記号 Eロ (絵本)

昔、5人の音楽隊がいました。どこに行っても国中で一番の腕前と言われていました。ところがある日、チェロからは「メー」トランペットから「ガアーガアー」とおかしな音しか出なくなりました。音楽が聞けなかったトロールがおこって魔法をかけたのです。どうするのでしょうか。



図書館員（鎌田 友理）のおすすめ本

書名 仕事場のちょっと奥までよろしいですか？

著者名 佐藤 ジュンコ／著

出版社 ポプラ社

所蔵 新屋・土崎・河辺

請求記号 366 (職業紹介)



元書店員であるイラストレーターの著者・佐藤ジュンコさんが、さまざまな職業の仕事場を「ちょっと奥までよろしいですか？」と見学した体験をまとめたコミックエッセイです。

紹介されている職業は、「小説家」「建築家」など聞きなじみのあるものから、「鳥瞰図絵師」「印章彫刻マイスター」などめったに耳にしないすこし珍しいものまで、あわせて15

種類。それに佐藤さん自身の仕事である「イラストレーター&書店員」が加わり、全部で16種類となっています。

具体的な仕事の内容だけでなく、その職業に携わる人が「どういうことに喜び、どういうことに苦勞しているのか」という深い部分まで取材されており、読み終えるともものづくりに対する敬意がより一層深まります。

図書館員（近藤 明奈）のおすすめ本

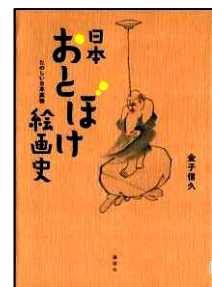
書名 日本おとぼけ絵画史 たのしい日本美術

著者名 金子 信久／著

出版社 講談社

所蔵 新屋

請求記号 721 (絵画)



タイトルに惹かれ、表紙の絵を見て完全に心を掴まれました。「日本画」「日本美術」と聞くと「堅い！難しい！」というイメージを持ってしまい、そのような本にもなかなか手が伸びないのですが、そんな私を引き付ける気楽さとおかしさを醸し出していたのがこの本です。

タイトルの通りとぼけた顔の絵画が次々紹介されていますが、描いた人物を見ると尾形光琳

や歌川広重など、美術に疎い私でも聞いたことのある名前がずらずら…。どれも、「なぜその表情？」「なぜそのポーズ？」と、いちいちっこみたくなる絵ばかり。一つ一つの絵に添えられた作者のコメントがまた絶妙で、面白おかしくしながらしっかりと解説もされています。

「絵画ってなんだか難しそう」と敬遠している方にこそおすすめです。

記事になったお酒の話題あれこれ・・・シャンゼリゼ通りに日本酒が・・・

県内7蔵元の日本酒が、パリ・シャンゼリゼ通りのすし店で提供されています。すし店の経営に携わる卸販売会社に、北都銀行が融資した縁で実現しました。日本人の板前が江戸前ずしを握り、それに合わせる日本酒として、鈴木酒造（大仙市）の「秀よし」や、大森建設（能代市）の「福八」などを提供しており、今年1月からは、いぶりがっこや稲庭うどんなども欧州に輸出されています。

県内の日本酒や食べ物は、遠い異国の地でも楽しまれているのですね。

新屋は、醸造の街。
新屋図書館には、酒の
資料コーナーがあります。

【参考資料】

秋田魁新報

平成30年7月20日

平成ってどんな時代？・・・平成17年・・・

平成17年は2005年。2月に京都議定書が発効され、それとともないクールビズが推進されるようになりました。また、“自然の叡智”をメインテーマとして掲げた日本国際博覧会「愛・地球博」が3月25日から9月25日まで開催され、国際的な環境問題について取り上げられることが多い年でした。

日本では、3月20日に最大震度6弱を記録した「福岡西方沖地震」、7月23日に最大震度5を記録した「千葉県北西部地震」、8月16日に最大震度6弱を記録した「牡鹿半島を震源とする宮城県沖地震」と大きい地震が多発。また、5月には北朝鮮が日本海に向けて地対艦ミサイルを発射。防災意識や危機意識が高まりました。

秋田県では、北秋田市・男鹿市・潟上市・由利本荘市・大仙市・湯沢市の6市が発足。既に発足していた美郷町と秋田市をあわせ、「平成の大合併」によって8市町が誕生しました。

【参考資料】「秋田魁年鑑2006」「秋田魁年鑑2007」

図書館員のひとりごと

先日、通勤途中に鷹らしき鳥が勢いよく飛んでいるのを見ました。目で追うと、どうやら鷹は目の前を飛ぶ小鳥を捕まえようと奮闘している模様…。どうする?!どうなる?!とハラハラしていると、一瞬の隙をついて鷹が小鳥を空中でキャッチ!足でしっかり捕まえたまま、私の車のすぐ目の前を通り過ぎて行きました。あっという間の出来事でしたが、珍しい、貴重な瞬間を目撃したのでは?!と、今でも思い出して興奮冷めやらず、その時の光景がはっきりと目に焼き付いています。日々、自分の体の衰えを感じる今日この頃…私もあの鷹のように身軽に体を操りたいものです。(近藤)

新屋図書館に勤務し始め4カ月。少しずつ周りを見渡す余裕が出てきました。特に目に留まるようになったのが、本のタイトル。好きな言葉や表現は覚えてこっそり書き溜めています。

その言葉や表現を元にして小説を書きたい。そう思いはするものの、創作に費やす時間が足りません。また、この図書館という環境は次々に新しい刺激があり、書きたいものも移ろいゆきます。長い時間をかけて長編小説を書きあげる作家さんたちに、尊敬の念しかありません。

ネタは溜まるばかり、創作意欲は燻ぶるばかり。いつになったら私の超大作(仮)は完成するのでしょうか…。(近間)